

描こう！21のユニークなまちの顔

# 「地域魅力発信プラン」

策定の手引き

平成24年5月

宮崎市地域振興部地域コミュニティ課

## 目 次

1. 「地域魅力発信プラン」とは . . . . .	2
2. 市の支援 . . . . .	5
3. プラン策定のスケジュール . . . . .	7
4. 話し合いの進め方 . . . . .	8
Step 1. 地域の現状を知ろう . . . . .	9
Step 2. 地域の将来像を描こう . . . . .	10
Step 3. プランとしてまとめよう . . . . .	11
プラン策定のイメージ . . . . .	13
5. 策定後の活用方法 . . . . .	14



## 1. 「地域魅力発信プラン」とは

現在、市内の各地域において、地域協議会や地域まちづくり推進委員会の皆さまを中心に、地域課題の解決のために熱心に活動されています。

また、平成21年度からスタートした地域コミュニティ活動交付金を活用しての取組みについても、これまで各地域において特色ある事業が展開され、その活動は着実に広がりを見せています。

そのような中、これらの取組みがより効果的で、継続的に発展するものとなるために、今後、各地域において、まちづくりの計画である「地域魅力発信プラン」を策定いただきたいと思います。

この手引きは、策定されるプランが各地域において有効に活用されるものとなるよう、策定の流れなどをまとめたものです。

### ◇「地域魅力発信プラン」とは

「地域魅力発信プラン」は、各地域の現状を把握し、まちづくりの将来像を明確にするために策定する、地域ごとのまちづくりの計画です。

地域では、それぞれの団体が地域のために熱心に活動されておられますが、一方で、役員の高齢化や固定化などの課題を抱えています。

今回策定いただくプランは、地域の皆さまが、そのような課題を一つずつ解決しながら、同じ目標に向かって一緒に取り組むための、いわば道しるべとなるものです。



また、策定にあたっては、地域の皆さまが自分の地域に愛着と将来への夢を持てるような、地域の個性が光るプランとなるように、歴史や文化、自然環境や人材など、地域に眠る資源（宝）を地域の皆さまが共有し、宝を上手く活用できる取組みを検討いただくことが、本市が目指す「きずな社会」づくりにおいても効果的であると考えています。

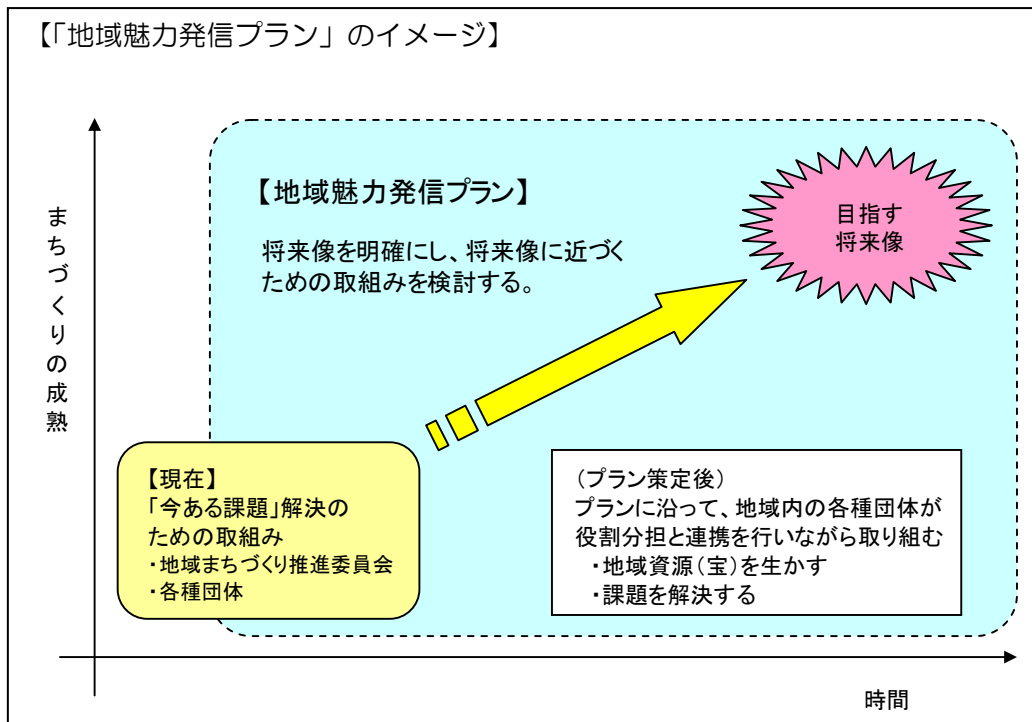
### ◇なぜ策定しなければならないか

地域自治区における課題解決を図るためにスタートした地域コミュニティ活動交付金を活用しての取組みも3年を経過し、一定の成果が出ているものと考えています。

しかしながら、この取組みが始まったことで、従来からの団体と地域まちづくり推進委員会が、それぞれ同じような取組みを行っていたり、今の取組みが地域の将来にどうつながるのかが不明瞭であるなど、新たな課題も生じているのではないのでしょうか。

そこで今回、「地域魅力発信プラン」を策定し、地域の将来像を明確にすることで、地域で取り組むべき事業やその主体の整理をしていただきたいと考えています。

その結果として、策定されるプランのもと、それぞれの団体が取り組むべきことが明確になれば、複数の団体が同じような事業に取り組む必要はなくなるかも知れません。また、それぞれの団体が必要な連携を行うことで、無理なく活動できることが考えられます。



### ◇策定の方法

地域ごとに個性のあるプランとなるためには、実際に地域で活動しておられる皆さまが主体となり、策定いただくことが望ましいと考えておりますことから、地域の各種団体の代表などで構成される地域協議会に、策定作業をお願いしたいと考えています。



また、策定の過程においては、地域協議会以外の団体がプラン案の検討を行うことも可能としますが、そのような場合は、地域協議会がプラン案をしっかりと吟味し、最終的なプランとしてまとめ上げていただきたいと考えています。

宮崎市は広く、地域によってその環境や住民構成も様々です。そのため、策定されるプランの内容もそれぞれ異なるものになると思います。

このプランでは、「こんなものを策定しないとダメ」というルールはありません。地域の皆さまがそのプランに沿って無理なく活動ができるよう、個性と夢のあるプランを策定いただきたいと考えています。

### ◇策定の期間

平成24年4月から平成26年3月までの2年間とします。

### ◇策定の効果

「地域魅力発信プラン」の策定により、地域住民の皆さまが、自分の住む地域の現状や将来像を共有できることとなります。

また、策定されるプランのもと、地域まちづくり推進委員会をはじめとする地域の各種団体が、連携や役割分担を行いながら、同じ目標に向かって取り組むことで、まちづくりがより効果的、継続的に実施されるものと期待できます。

策定されるプランが、まちづくりに取り組んでいただいている方には今後の活動の指針となり、これまでまちづくりに関心のなかった方にはまちづくりに関わるきっかけになるものになれば良いと思います。

## 2. 市の支援

「地域魅力発信プラン」は、地域の皆さまが主体となり策定いただくものですが、市としましても、以下のような支援を行いながら、将来の地域まちづくりのあるべき姿を、皆さまと一緒に考えていきます。

### ◇会議運営の支援

プラン策定のための検討が始まると、地域協議会の回数を増やす必要がある地域も出てくると考えられますので、会議開催に必要な経費を予算化し、ある程度の回数の増加に対応できるようにいたしました。

また、地域協議会での検討にあたっては、地域コミュニティ課並びに各地域自治区事務所（総合支所地域総務課・企画総務課、地域センター、地域事務所）職員が会議運営の支援をまいります。

### ◇研修会の開催

プランの策定作業には、地域によってその進捗に差が生じることも考えられますが、作業の段階に応じた研修会の開催を検討しています。

研修内容は、会議の進め方、地域資源の活用方法など、検討にあたって必要なノウハウを提供できるものにしたいと考えています。

また、実際に支援を行う市職員も、プラン策定の意義等を正しく理解していなければなりませんので、地域自治区事務所の職員を中心とした市職員に対する研修も実施まいります。

◇地域住民への情報提供

地域のまちづくりに関するプランですから、策定作業の内容や経過を、地域の皆さまに知っていただくことは大変重要です。

また、地域住民の皆さまに、地域協議会の組織や取組みなどを知っていただくことは、地域住民の皆さまに地域活動への参加を促す機会にもなるものと考えます。

そこで、「地域協議会だより」や市のホームページ等を活用し、広く地域の住民の皆さまに情報提供をしてまいります。



### 3. プラン策定のスケジュール

策定期間は平成24年4月から平成26年3月までの2年間です。

この2年間で、地域の現状を知り、将来像を描き、最終的にはプランとしてまとめ上げることになります。

地域によって、会議の頻度やそれぞれの段階に係る時間等も様々だと思いますが、ここでは、大まかなスケジュールの一例を示します。

年度	項目	
	市	地域
24	5月 市職員に対する研修 6月～ 各地域協議会委員に対する説明 8月 全体研修会	地域によって進捗に差が生じるため、あくまで「目安」です。 7月～3月 地域の現状把握 (課題の整理) (宝探し)
	その他 ・会議運営の支援 ・地域協議会だよりの発行 など	4月～9月 将来像の検討 10～3月 プランとしてまとめる (内容の点検)





## 4. 話し合いの進め方

地域協議会委員の皆さまや地域の各種団体の多様な意見を上手く反映し、より良いプランを策定するためには、上手に話し合いを進めることが重要です。

ここでは、プラン策定の作業を3つの段階に分け、それぞれの段階での話し合いのポイントなどをまとめています。

### ◇会議の形式

通常、地域協議会では会長が議長を務め、会議を進行します。

しかし、より効率的に会議を進めるために、具体的な検討の場面においては、下記のような工夫をしていただくことが可能です。

### ○分科会を設置する

まちづくりと言っても、その内容は多岐に渡ります。地域協議会委員さんは20名程度いらっしゃいますので、3つ～5つ程度のグループに分かれて検討することも一つの方法です。

### ○ワークショップの手法を取り入れる

近年、会議において合意形成を図るための手法として用いられることが多いのが、この「ワークショップ形式」による会議進行です。

これは、全体の進行役である『ファシリテーター』が、参加者の意見が出やすい環境を整え、『KJ法』などの手法を利用して、効率的に意見をまとめていく方法です。

※KJ法：少人数のグループで、各自の意見を書いた紙（付箋など）を模造紙などの大きい紙の上で整理しながら、参加者の意見の傾向（共通点や違いなど）を明確にしていく手法です。

## Step 1. 地域の現状を知ろう

地域の将来像を考える際には、地域の現状をしっかりと把握しておくことが重要です。

そこで、まずは自分たちの地域が抱える課題や、他の地域に誇れる地域資源（宝）を探して整理します。

### <ポイント>

#### ①地域協議会の強みを生かす

地域協議会委員の皆さまの多くは、地域で実際に活動しておられる団体から推薦されています。地域団体の多様な意見を持ち寄ることができるという地域協議会の強みを生かし、幅広く議論していただきたいと思います。

さらに、地域協議会委員の皆さまが、その所属団体においても話し合いいただくことで、より議論が深まるものと思います。

#### ②市の持つ情報を活用する

地域に眠る資源、いわゆる宝を探す際には、市の関係各課が持つ情報を活用することも有効です。市の各課が持つ情報を活用しながら、将来のまちづくりに活用できる宝を見つけていただければと思います。

市としましても、参考になる情報が提供できるよう、関係各課と連携してまいります。

#### ③子どもたちの考えを取り入れる

「地域魅力発信プラン」は、まちづくりの将来像を明確にするものです。プランが地域住民の皆さまに長く活用されるために、将来のまちづくりを担う子どもたちに、地域の宝を探してもらう方法もあるのではないのでしょうか。

子どもたちが何を地域の宝として認識しているのかを把握し、その宝を生かすまちづくりが実践できれば、子どもたちが自分の地域に誇りを持てる、そんな地域になるのではないかと思います。



#### ④多くの団体の意見を集める

地域には、地域協議会に委員を推薦していない団体もあると思います。

そのような団体も、それぞれその分野において地域の現状を把握されていますし、プランの策定後、効果的にまちづくりを進めるためには、地域の各種団体がその目的や内容を共有することが重要になりますから、可能な限り、多くの団体の方の意見を聞く機会を設けられると良いと思います。

他の団体の意見を聞く機会を設けられる場合は、市としましても、団体との調整などの場面で支援を行っていきます。

#### ⑤地域まちづくり推進委員会と連携する

地域まちづくり推進委員会は、地域協議会と連携し、地域の課題解決のための事業に取り組んでいます。そのため、地域まちづくり推進委員会の事業を検証することで、見えてくる課題もあるものと思います。

また、各事業の実施の際に、住民に対するアンケートも実施されていますので、地域まちづくり推進委員会のメンバーの意見はもちろん、アンケートの回答を参考にすることも有効です。

## Step2. 地域の将来像を描こう

地域の現状がわかったら、次に地域まちづくりの将来目指す姿を描いていきましょう。

将来の姿をイメージすることは簡単ではありませんが、10年後、20年後はどんな地域であってほしいか、自分の子どもたちの世代に、どんな地域を引き継いでいくべきか、皆さんで検討いただければと思います。

なお、この段階では、詳細な将来像というよりは、「こんな地域にしたい」、「こんな地域に住みたい」というイメージが描ければ良いと思います。地域のキャッチフレーズを決める方法もあると思います。

## Step 3. プランとしてまとめよう

いよいよ、「地域魅力発信プラン」としてまとめていく段階です。まとめるという作業は、いわば現状と将来像のギャップを埋めるために必要なことを整理する作業です。

これまで考えてきた目指す将来像に近づくためにはどうすればいいか。どのような主体がどのような取組みを行っていくのかを検討し、まとめていただきたいと思います。

### <ポイント>

#### ①将来像に近づけるための取組みを考えよう

地域の将来像に近づけるために、どのような取組みを行っていけばよいのかを考え、まとめます。

ただし、プランはあくまでプラン(=計画)ですから、あまり具体的なものにする必要はありません。「〇〇に取り組みます」というように、将来像に近づくために取り組むことを項目ごとにまとめると良いと思います。

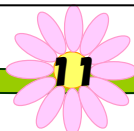
#### ②実施主体(事業の担い手・役割分担)を考えよう

地域には様々な分野で活動する団体があるわけですから、多様な主体が協力し、少しずつ役割を分担しながら取り組むことで、持続可能なまちづくりになると考えます。

そこで、地域まちづくり推進委員会をはじめ、どの団体がどのような役割を担うかということについて、点検いただければと思います。

また、このプランは、地域の皆さまが取り組むことのできるものをまとめていくものですが、検討の中では、地域力だけでは解決せず、行政の力を必要とするものも出てくると思います。

そのような場合は、従来どおり、地域協議会から市への「施策の提言」により、関係各課へご意見をいただければと思います。



### ③「夢のある」プランを夢で終わらせない

まちづくりは一過性のものではなく、将来にわたって続けられるものです。今回のプランも、将来像を描くものですので、その成果も簡単に現れるものではありません。

地域の皆さまのモチベーションを高め、継続して取り組むことができるよう、策定されるプランは、夢のあるものになればと思います。

しかし、そうすることで、理想ばかりで実現が難しいものになっていけません。策定されるプランが「絵に描いた餅」にならないよう注意していただきたいと思います。

このプランには「このようなものを作らないといけない」という制約はありません。地域の皆さまが取り組みやすいプランをお考えいただきたいと思います。

このようなことに注意しながら、プランをまとめ上げていきます。簡単なパンフレットを作成いただくことになるとは思いますが、地域の各種団体をはじめ、多くの方に地域まちづくりへ参加、参画いただけるような、わかりやすいパンフレットになればと思います。

なお、アンケート調査やパンフレットの印刷、製本などには、地域コミュニティ活動交付金を活用いただけます。

## 【プラン策定のイメージ】

## 【Step1. 地域の現状を知る】

地域の課題や資源（宝）を探し、整理する。

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の高齢化</li> <li>・自治会加入率の減少</li> <li>・住民同士の交流が少ない（高齢者と子育て世代の交流など）</li> <li>・地域団体が抱える悩み（役員の高齢化、事業の固定化など）</li> </ul>
資源（宝）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の神社と神楽（歴史・文化）</li> <li>・地域を流れる川（自然）</li> <li>・昔遊びの達人（人材）</li> </ul>

## 【Step2. 地域の将来像を描く】

課題の解決や資源（宝）の活用などの視点から、地域が目指す将来像を考える。

＜地域課題を改善するために＞

- ・高齢者が安心して暮らせるまちにしたい
- ・住民みんながまちづくりに参加し、活動が継続、発展するようにしたい
- ・地域団体の負担感を減らし、活動しやすい環境を作りたい

＜地域資源（宝）を生かすために＞

- ・神社の神楽をずっと残したい
- ・川を地域のシンボルにして、多くの住民が集う場所にしたい
- ・地域の技人を活用し、子どもたちと交流したい

目指す将来像

- ◎地域住民が地域の宝を共有できるまち
- ◎各世代が相互に支えあうことができるまち
- ◎無理のない持続可能なまちづくり

## 【Step3. プランとしてまとめる】

将来像に近づくための方策を考え、プランとしてまとめる。

- ◎地域住民が地域の宝を共有できるまちづくり
  - ・地域の大切な伝統芸能である〇〇神楽を次世代に承継します
  - ・文化財の保存に努めます
  - ・〇〇川の保全に努め、地域住民の憩いの場を作ります
- ◎各世代が相互に支えあうことができるまちづくり
  - ・三世代交流を進めます
  - ・高齢者の見守りや子育て世代のサポートに取り組みます
- ◎無理のない持続可能なまちづくり
  - ・まちづくりを担う人材の発掘と育成に努めます
  - ・各種団体間の事業の整理を行い、無理なく活動できる環境を作ります

## 5. 策定後の活用方法

策定されたプランは、地域協議会委員の皆さまをはじめ、地域の皆さまの意見を反映させながら、時間をかけて作り上げたものです。

せっかく作ったプランですから、作ったことに満足してしまわずに、地域の各種団体や住民の皆さまが、同じ目標に向かって取り組むことができるよう、上手に活用したいものです。

### ◇各種団体の取組み

地域まちづくり推進委員会をはじめ、地域の各種団体は、現在もそれぞれの立場から、多くの事業を実施しています。

プランの策定後、地域の将来像や、その実現のために取り組むことが明確になりましたら、地域の各種団体の皆さまには、現在行っている各事業についての検証を行っていただき、必要な事業の構築、見直しを行っていただきたいと思います。

現在行っている事業が、プランに沿ったものであると判断できれば、それをさらに充実させ、逆に見直すべきと思われる場合は、どう見直すことが、地域の将来のためになるかをお考えいただきたいと思います。

#### ◇地域内での役割分担

現在、地域によっては、地域まちづくり推進委員会や他の地域団体が、同じような事業を実施している例があるのではないかと思います。

そのような場合、プランのもとに、どの団体がその事業を実施することが望ましいかを考えていただくことで、実施主体や役割分担が整理できるのではないかと考えています。

策定されるプランのもと、各種団体の活動が見直され、重複のあった部分が解消されることで、それぞれのやるべきことが明確になり、負担も軽減されます。

それぞれの団体が負担を分け合いながら、得意な分野で力を発揮できる環境を整えば、継続的にまちづくりに取り組んでいけるのではないのでしょうか。

#### ◇まちづくり活動の周知・人材発掘

地域まちづくりに関わる人材が不足していることは、各地域共通の課題であると考えます。

そのような中では、策定されたプランを広く地域住民の皆さまに周知し、自分の地域がどのようなまちを目指し、どのような活動を行っているかを知っていただくことは非常に大切です。そのため、地域の皆さまが関心を持っていただけるような事業を実施しながら、まちづくりの人材を発掘、育成する工夫も必要になると思います。

特に、次世代を担う子どもたちや、その親の世代にまちづくりに関心を持っていただき、活動に参加いただくことが、世代を超えて永く取り組みが継続するためには重要になってきます。

今回策定いただく「地域魅力発信プラン」を、地域住民の皆さまが共有いただき、地域まちづくりがより効果的に行われるように、市も一緒に考えてまいります。  
皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。